



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

今回も、松永さんのエッセイ集「風になってください」より「あんな人達」を紹介させていただきます。

あんな人達

音楽は好きだ。視覚を失っても、十分楽しめるもののひとつだ。

いろいろな楽器をたしなむ視覚障害者も多い。

新垣勉のコンサートに出かけた。彼は沖縄出身で、駐留米軍兵士と沖縄女性との間に生まれ、わずか一歳で失明、両親にも捨てられて、祖母に育てられた。

すさまじい人生を生き抜いてきた彼の歌声は不思議と澄み切っている。

一度聞いただけで好きになった。

S席五千五百円は、僕には少し決心がいったが、奮発して出かけた。

会場のNHK大阪ホールは熱気に満ちていた。自然と僕の胸も高まり始めた。

会場を移動する僕の耳に、突然女性の話し声が飛び込んできた。

「あんな人達もきているのね」間違ひなく僕に向けられた声だった。

瞬間的に、その辺の空気が凍りつき、たくさんの視線が僕をつらぬいた。

ぼくは白杖を握る手に少しが力が入ったが、何事もないように歩いた。

今日を楽しみに来られた、大多数の普通の人達の想い出が汚れないように。

人は時々、無意識に他人を傷つけてしまうことがある。

何気ない一言。僕もどこかで誰かに、きっとあるだろう。

言葉ほど優しくて恐いものはない。

「あんな人達にならないように」

そう自分に言い聞かせながら席に着いた。新垣勉の歌う讃美歌が心の奥まで染み渡った。

視覚障害に限らず、好んで障害者になる人なんていません。大切なことは、少なくとも、

同じ音楽を共有しているということ、同じ生き物だということだと思います。



何気ない一言に傷ついた時

先日のカウンセラーを囲む会では、「嫌な思いの立て直し方」をテーマに話がありました。人とのやりとりで「嫌なことを言われた、馬鹿にされた、傷つけられた」というような思いが起きる時、どうしたらよいのでしょうか。感情を上手くコントロールすることは大人でも難しいです。多くの子どもは「我慢」「ハツ当たり」「気分が落ち込む」「体の不調」となってしまいます。

許せないことは、許さないのも一つの方法

「嫌な思い」をすっきりと解決することは、難しいです。そのモヤモヤとした中途半端な気持ちに耐える、「収める」「折り合う」ことも一つの方法です。また、気を紛らせることでかわしていく方法もあります。しかし、本当に許せないことは、「許せないこと」として心にしまっておくことも有りではないでしょうか。「いじめ」などの問題で、安易に謝罪をして済ませる場面がありますが、本当にお互いが納得していかなかったら、かえって状況を悪化させてしまいます。モヤモヤした嫌な思いを具体的な言葉にできようになるには、時間がかかります。いじめがきっかけで不登校になった生徒が、洛風で過ごす内に心が落ち着いて、「何がつらかったか」を言葉にして話し出すことはよくあります。自分なりに納得して乗り越えていくことが、心の成長につながっていくように思います。

今年度最後の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い～」は

2月21日（水）です